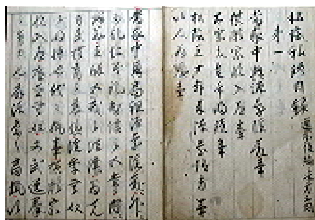


3 特殊コレクション Special Collections

新田文庫

新田文庫は1966（昭和41）年に故新田義美氏（旧新田男爵家）によって群馬大学附属図書館に寄贈されたもので、中世文書の写、近世の日記・系図・由来書や知行所から提出された文書、版本・写本の書籍類1,676点に、絵画資料（粉本類）を含めたコレクションである。

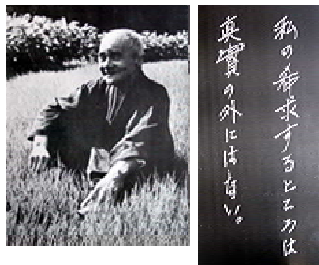
中世文書の写、近世文書（冊物）、書籍類等は、本学の落合延高教授により整理され、1984（昭和59）年に「新田文庫目録」、2年後に「新田文庫資料集1」を刊行した。近世文書のうち特徴的なものは、歴代新田岩松家が記録した「日記」「在府日記」「御留守日記」「御用所日記」と呼ばれる300点以上の日記で1680年から1894年までの214年間に及んでいる。



郷土かるた

群馬県は、全国5百数種を数える郷土かるたのうち、百数種のかるたを保有する全国第1位の郷土かるた県である。

それらのうち、図書館は平成9年、本学教育学部の山口幸男教授ならびに原口美貴子講師より寄贈いただいた100種の全国の郷土かるたを所蔵する。



田辺文庫

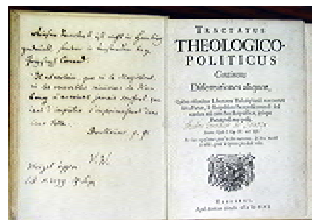
田辺文庫は京都大学名誉教授故田辺元博士（1885-1962）の遺贈にかかり、博士が京都大学退官後定住された群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢の山荘に所蔵されていた図書の大半を含むものである。博士の思索のあとをうかがい知る上において貴重な資料となる書き込みのある図書、手帳、書簡、アルバムなどを含んだコレクションである。

博士は、1954（昭和29）年に夫人を失い、以後孤独のうちに専ら研究と著述に傾倒されたが、1961（昭和36）年に病で倒れ、群馬大学医学部附属病院に入院、1962（昭和37）年77才をもって逝去されるまで、同病院において静かに治療生活を送られた。博士はそのことを縁として、門下の人々とも協議の上、その蔵書の大半を特に本学に寄贈することを託された。

スピノザ文庫

前橋市の書店「煥平堂」の経営者であった高橋清七氏（1884-1942）が集書・愛蔵し、死後ご意志により本学に寄贈された8,000点余の図書のうち、スピノザ（1632-1677）哲学の学術文献236点を選別したものである。

同文庫の中で、最も資料的価値の高いもののひとつは「原典版」とよばれる刊本資料の『神学政治論』（Tractatus THEOLOGICO-POLITICUS）である。同書は出版後（1670初頭）まもなく異端文書として教会からの弾劾の対象となった。今日確認されているだけでも、10種類の異なった版が17世紀中に出ているが、著者名はどの版にも記載されていない。当館所蔵本は、スピノザ研究の第一人者であるハイデルベルク大学カール・ゲブハルト教授の分類によるとその第一分類に当たる初版本である。



ダンテ神曲

DANTE(A.) DIVINA COMMEDIA (Venice 1491)

初期イタリアにおける代表的な作品。本書は初期揺籃本（インキュナブラ：15世紀後半の50年間に印刷された書物の総称）と呼ばれるもので、資料的な価値は大変に高い。総頁302葉、うち4枚の木版画を含み97画が本文にはめ込まれている。

明治期教科書

群馬県師範学校及び女子師範学校などの蔵書印のある、明治期に師範学校及び小学校で実際に使われた教科書約3,000冊を所蔵している。

明治の初めに設置された群馬県師範学校の前身である熊谷県「暢發学校」のもの、「十七番中学本部学校」、「群馬県衛生所・群馬県医学校・群馬県女学校」などで使われたもの、群馬県の小学校指定図書や明治期の芸術教育に関するもの等、内容は多岐に亘る。

その中には「小学校生徒用物理書」を初めとする、日本において近代科学思想が明治期初期にどのように広められ、また教育されてきたかを知る契機となる書物も多数ある。

全体として、物理・理科系500冊、算術数学系300冊、讀本1,000冊、歴史地理300冊、修身300冊、音楽・図画手本・習字手本などの尋常・高等小学校教科書を中心とするコレクション（内和綴本1,800冊）である。



4 機構図 Organization Chart

群馬大学総合情報メディアセンター

群馬大学図書館

医学分館

総合情報メディアセンター長 中里 洋一
(平成17年～)

医学分館長 遠藤 啓吾
(平成16年～)

工学分館長 稲村 實
(平成19年～)

情報基盤部門

工学分館